

○高橋紀博委員長 ただいまより、民生常任委員会を開会いたします。

本日の会議に杉山委員から欠席する旨の届出があります。

それでは、会議を進めてまいります。

1、保健衛生及び病院事業に関する事項についてを議題といたします。（1）市立旭川病院における新型コロナウイルス感染症への対応について、理事者から報告願います。

○木村市立旭川病院事務局長 市立旭川病院における新型コロナウイルス感染症への対応につきまして、配付資料に基づき、御報告を申し上げます。

資料の1ページを御覧いただきたいと存じます。新型コロナウイルス感染症につきましては、各種補助金や診療報酬上の加算など、国の特例措置が今年3月をもって終了ということになりましたけれども、当院におきましては、新型コロナが周期的な感染拡大を繰り返す可能性があること、感染力が強く、院内で集団感染が発生した場合には、他の診療への影響が懸念されること、高齢者を中心に一定数の入院患者が存在していることなどから、令和6年4月以降につきましても、専用病床を維持しながら、引き続き、新型コロナを念頭に置いた診療を行ってきたところでございます。

この間、新型コロナの感染者数につきましては、これまでと同様に周期的に増減を繰り返してきておりまして、定点把握における発生動向によりますと、昨年度との比較で明らかな減少には至っていない、そういった実情となっております。こうした状況を踏まえ、当院におきましては、今後も新型コロナ診療を同様に継続していく予定であります。これらの対応につきましては、当院の経営にも少なからず影響があることもありまして、昨年度に引き続きまして直近半年間、今回は令和6年度上期ということで、4月から9月分の状況になりますけれども、この間の当院の対応状況につきまして報告するものでございまして、順次、資料に沿って御説明を申し上げます。

まず、1ページ目の下段の1、当院における新型コロナへの対応状況についてであります。昨年5月に新型コロナが5類感染症に移行した後におきましても、当院では、入院診療や職員の感染対策は2類相当時と同様に対応し、一部の診療科では入院前抗原検査、スクリーニング検査も実施してきておりますが、今年度に入ってから、それらの対応を継続しております。また、コロナ専用病床12床体制につきましても維持することで、入院の受入れなど、感染患者への対応とともに、院内での感染拡大による診療体制への影響を最小限とする取組を行っております。

一方で、市内の患者数の状況にかかわらず、院内におきましては、職員や入院患者の感染が確認されておりまして、一部の入院病棟においては、集団感染も発生している状況にあります。期間中、集団感染につきましては、5月、6月、7月、9月と、ほぼ毎月のように発生をいたしました。その都度、病棟での感染対策の徹底、発熱職員の出勤自粛や疑似症職員の出勤前抗原検査などにより、院内でのさらなる感染拡大防止に努めてきたところでございます。

資料2ページ目に入っておりますけれども、入院面会につきましては、病棟が密状態にならないよう、引き続き、人数や時間等に制限を設けた上で、原則、家族を対象として、予約制で実施しております。予約につきましては、昨年12月に導入いたしましたウェブによる面会予約システムによって受け付けておりまして、当該システムの利用者は増加しているという状況にございます。

続きまして、2、感染症病棟の入院患者数についてでございます。当院が最初にコロナ感染患者

を受け入れた令和2年2月から今年9月までの延べ入院患者数は、資料には記載はありませんけれども、疑い患者を含めて1万6千734人となっております。1日当たりの月平均入院患者数の推移については、3ページ目の表1のとおりとなっております。2ページ目に戻りますけれども、今年度上期、4月から9月までの6か月間の入院患者数は1千379人と、昨年度の同時期の1千273人を上回っております。表1のほうにもありますとおり、特に6月以降は下げ止まりの状況が続いているというところであります。こうした経過を踏まえ、入院患者数につきましては、市内の感染状況等により、今後も増減を繰り返しながらも一定数の受入れが想定されますことから、引き続き、当面、専用病床12床を確保することとしております。なお、こちら資料には記載はありませんけれども、今朝の段階での入院患者数については3人ということになっております。

次に、資料4ページ目になります。3、病院全体の患者数についてでございます。

まず、(1)入院患者数につきましては、5ページ目の表2にお示しをしておりますとおり、新型コロナが5類感染症に移行した昨年5月以降においては、いずれの月も前年同月を大きく上回りながら、増加傾向で右肩上がり推移をしておりましたけれども、今年の2月、3月をピークに、その後は減少傾向ということに転じておまして、特に8月、9月につきましては、先ほど申し上げました院内での集団感染の発生に伴う入院制限、そういったものもありまして、前年同月を下回るなど、低調に推移しているというところでございます。現在にあっても、入院患者数はコロナ以前の水準にまでは回復しておらず、依然として低迷している状況にありますが、今後におきましても、積極的な救急患者の受入れや診療所等との連携強化による紹介患者の獲得等に取り組むとともに、10月から新規開設した血管外科の稼働などによりまして、さらなる回復を目指して努力をしているというところであります。

資料4ページに戻りますけれども、中段の(2)外来患者数につきましては、市内を含む圏域の人口減少が進み、また、コロナ禍による患者の受診動向の変化が見られる中、令和6年度における8月までの累計では、市内の5基幹病院の中では、当院が対前年度比で唯一、プラスとなっておりますものの、6ページ目の表3にお示ししておりますとおり、こちらも、コロナ前と比べますと依然として低調に推移しているという状況でございます。外来患者の獲得に向けましては、当院が紹介受診重点医療機関に指定されているということも踏まえ、診療所等との連携強化に引き続き取り組むほか、健診事業や病院の広報活動を通じまして、各診療科の強みを周知する取組などに努めているところでございます。

説明は以上になります。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○高橋紀博委員長 ただいまの報告につきまして、特に御発言はございますか。

(「なし」の声あり)

○高橋紀博委員長 なければ、以上で予定していた議事は全て終了いたしました。

その他、委員の皆様から御発言はございますか。

(「なし」の声あり)

○高橋紀博委員長 それでは、本日の委員会は、これをもって散会いたします。

---

散会 午前10時09分